19-145

20-153

20-148

20-155

20-149

20-156

20-150

20-158

20-151

20-162

1号竪穴住居跡出土土器（7）

20-163

21-172

20-168

21-175

21-169

21-176

21-170

21-177

21-171

21-178

1 号竪穴住居跡出土土器（8）

1号竪穴住居跡出土土器（9）

25-1

33-6

27-10

33-10

29-2

34-14

31-3

34-15

31-5

34-17

２・３・４・６・７号竪穴住居跡出土土器

34-19

34-20

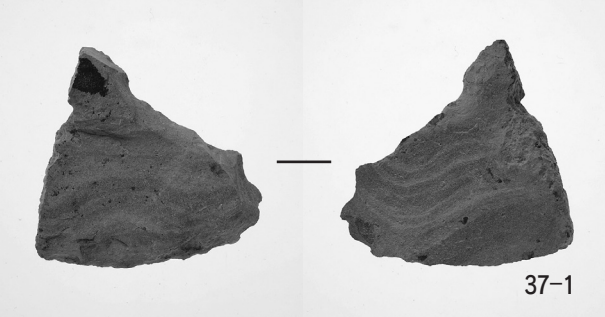
36-1

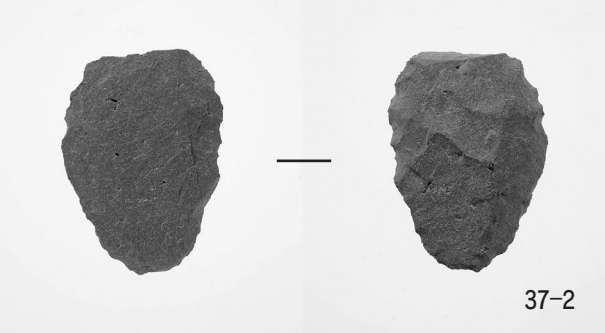
36-2

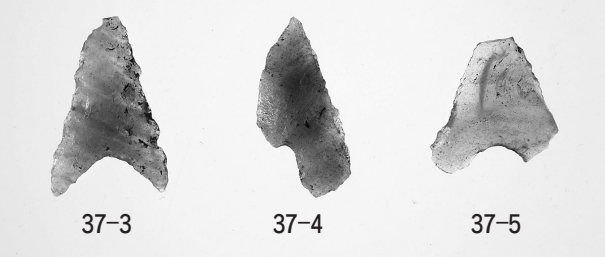
36-6

36-12

36-13

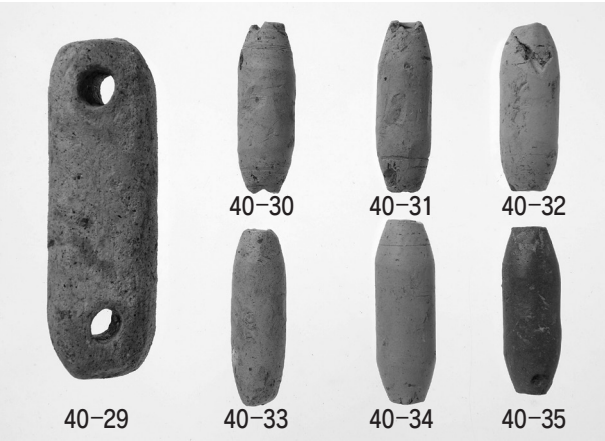

37-1

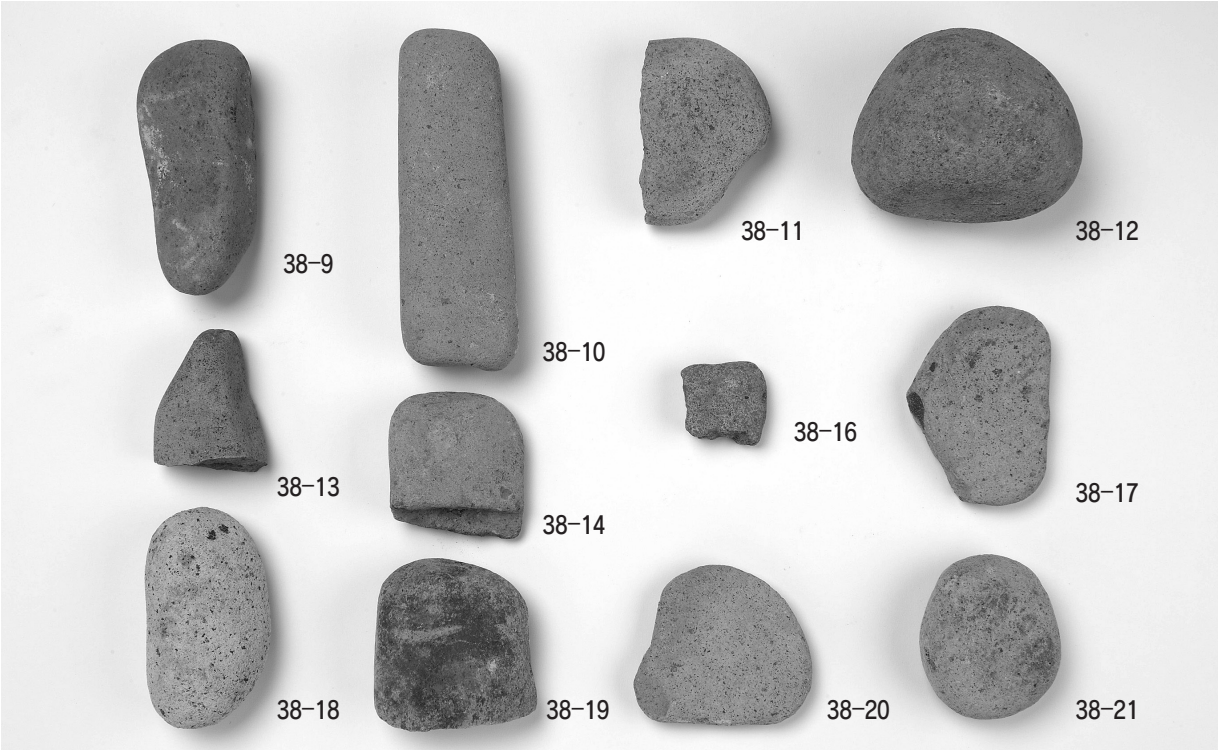

37-2


37-3　37-4　37-5

37-6

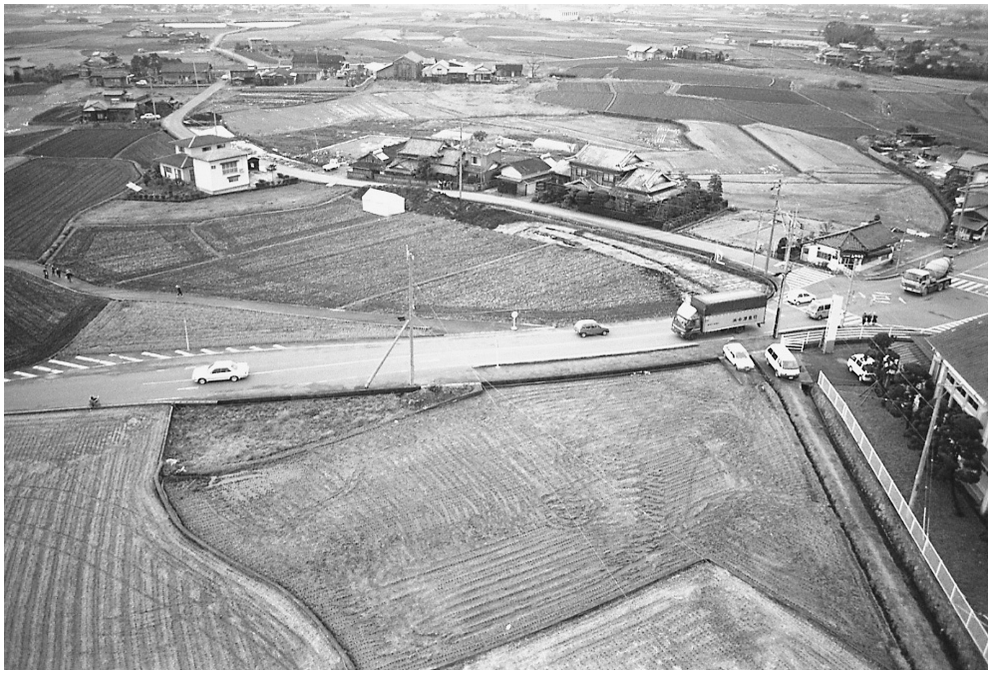
37-7
37-8


40-29
40-30
40-31
40-32
40-33
40-34
40-35


38-9
38-10
38-11
38-12
38-13
38-14
38-16
38-17
38-18
38-19
38-20
38-21

39-22
39-23
39-24
39-26
39-25
40-27
40-28

出土石製品・土製品

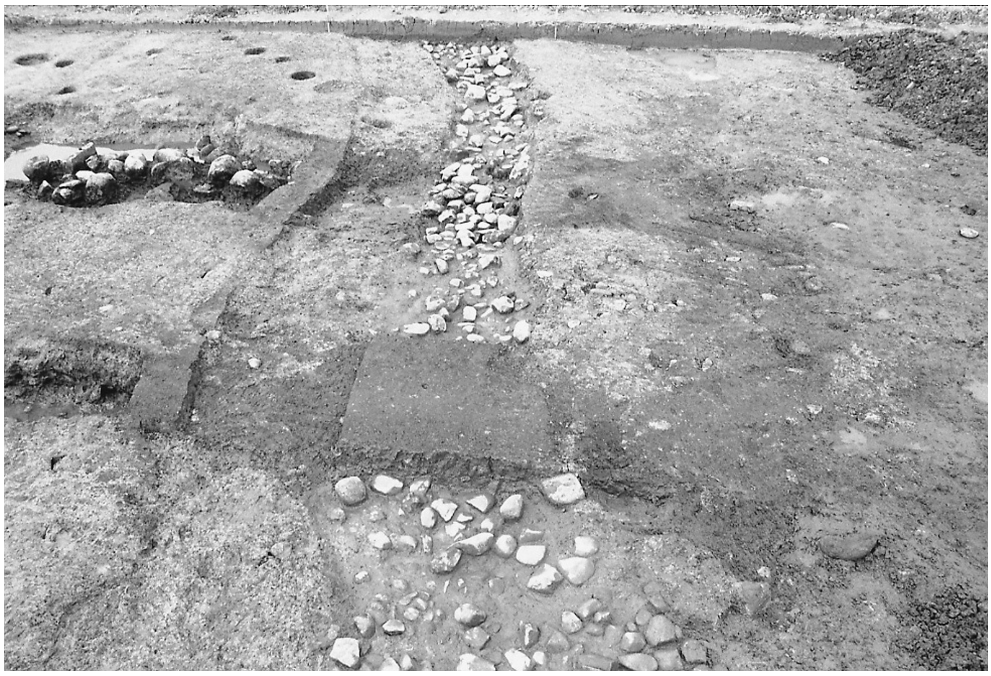


1．調査区全景
（北西から）

2．調査区南端
（北上空から）

3．1・2号溝南半
（南西から）

１．２号溝南半
（東から）



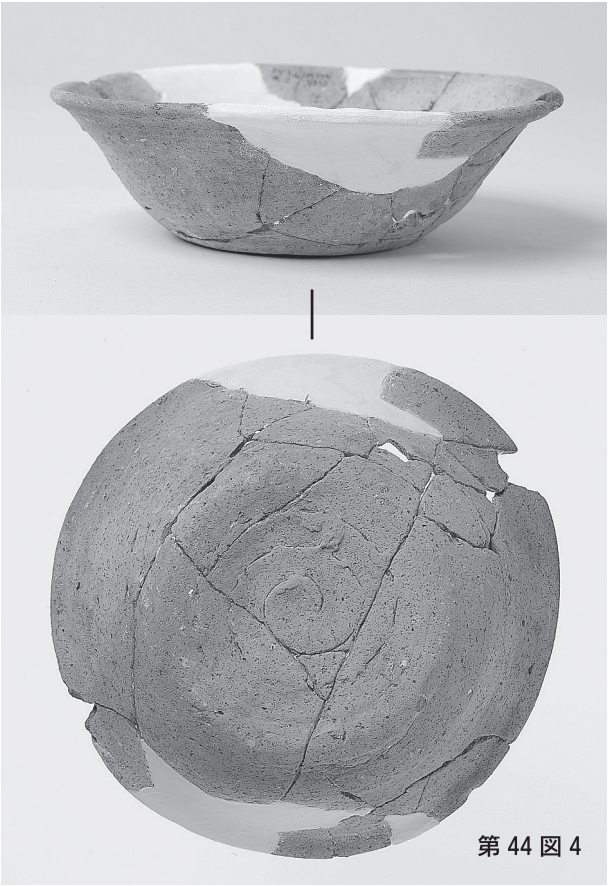
２．３号溝全景
（南東から）

３．３号溝西半
（南東から）

１．３号溝以北
（南西から）

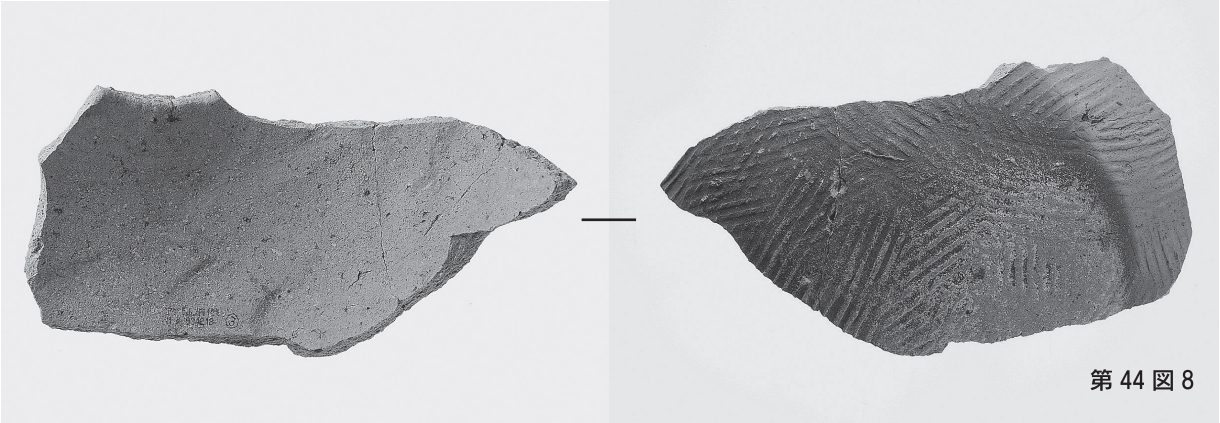
２．３号溝以北
（北東から）

３．　東調査区全景
（北東から）

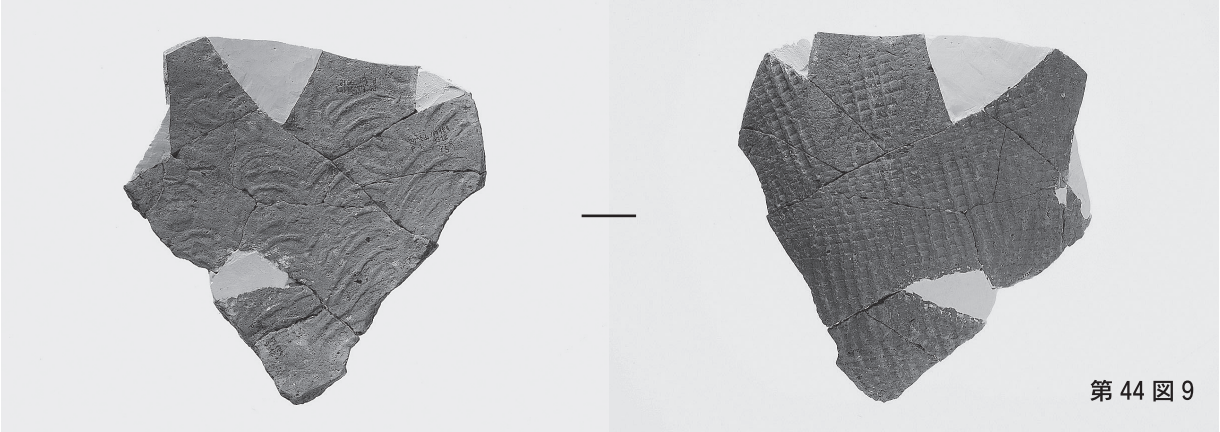


第 44 図 4

第 45 図



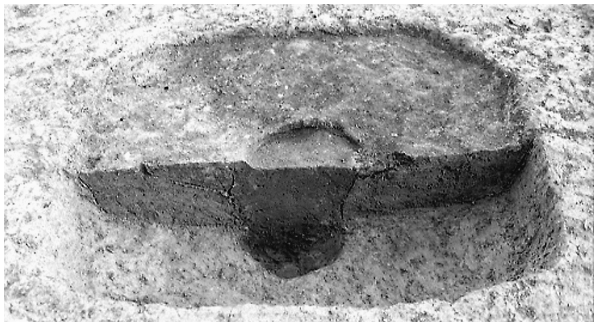
第 44 図 8



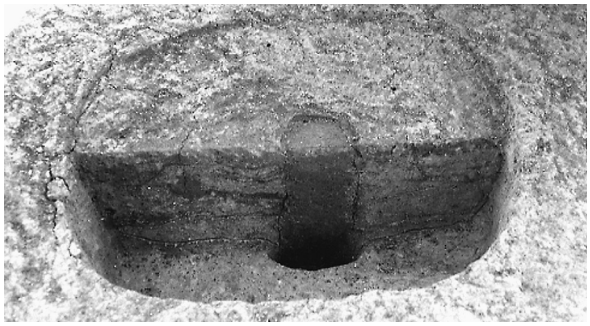
第 44 図 9

1．Ⅰ区全景（南西上空から）

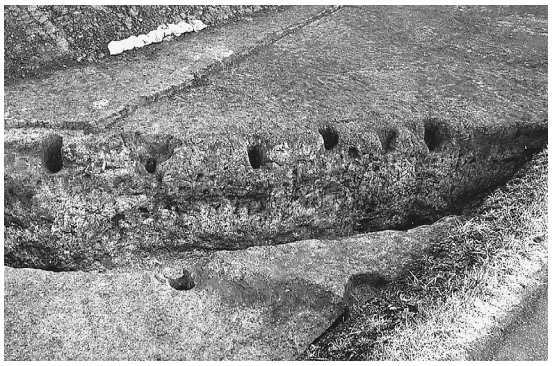
2．１号掘立柱建物跡（南西から）



3．１号掘立柱建物跡柱６土層断面（東から）



4．１号掘立柱建物跡柱７土層断面（東から）



5．１号溝状遺構・１号柵跡検出状況（南から）

6．１号溝状遺構土層断面（東から）

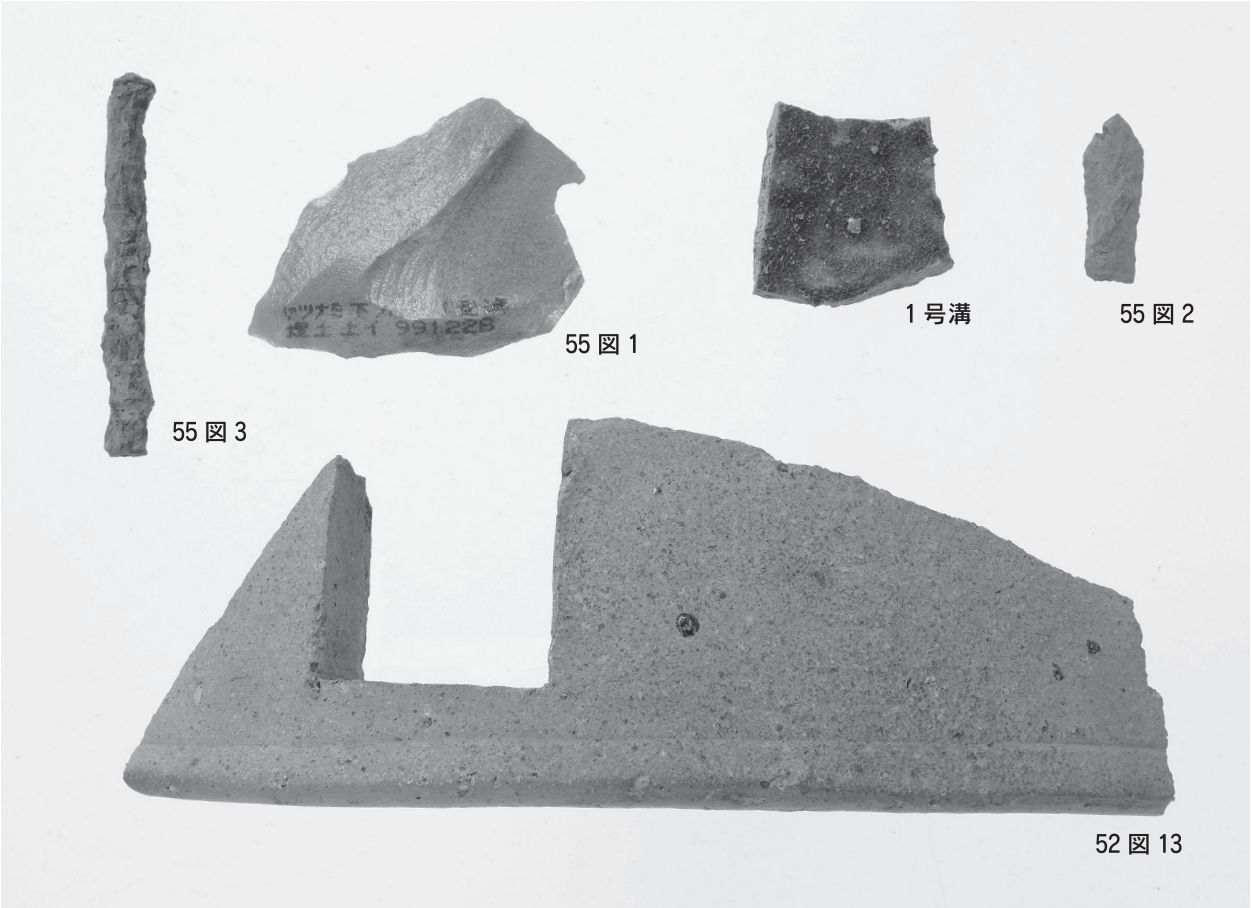
7．Ⅱ区全景（南西上空から）

52 図 9

54 図 6

54 図 1

内面


55 図 3

55 図 1

1 号溝

55 図 2

52 図 13

報 告 書 抄 録

ふりがな	わいだいせき・なりつねやまのうちいせき・やつなみしものはるいせき
書名	和井田遺跡・成恒山ノ内遺跡・八ツ並下ノ原遺跡
副書名	一般県道吉富港線・山内吉富線関係埋蔵文化財調査報告
巻次	
シリーズ名	福岡県文化財調査報告書
シリーズ番号	第 251 集
編著者名	齋部麻矢（編集）　飛野博文　秦憲二　小池史哲
編集機関	九州歴史資料館
所在地	〒 838-0106　小郡市三沢 5208 － 3　℡ 0942 － 75 － 9575　FAX 0942 － 75 － 7834 E-mail　kyureki@pref.fukuoka.lg.jp
発行年月日	2016 年 3 月 31 日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″		(㎡)	
和 井 田 遺 跡	福岡県築上郡吉富町	40642		33° 36′ 21″	131° 10′ 13″	20111028 ～ 20120209	1,200	道路改良
成恒山ノ内遺跡	福岡県築上郡上毛町	40646		33° 34′ 47″	131° 8′ 41″	19931201 ～ 19931224	1,000	
八ツ並下ノ原遺跡	福岡県築上郡上毛町	40646		33° 35′ 11″	131° 9′ 23″	19991213 ～ 20000106	630	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
和 井 田 遺 跡	集落跡	弥生時代後期 古墳時代初頭 近世	竪穴住居跡 7・土坑 4・溝 1・石列 1・埋甕遺構 1・ピット	土師器・須恵器・黒色土器・石製品	古墳時代初頭の土器類一括出土
成恒山ノ内遺跡		古代	溝 5・柱穴	土師器・須恵器・瓦器・石製品	
八ツ並下ノ原遺跡		奈良時代	掘立柱建物 1・溝状遺構 1・柵跡 1・落ち込み状遺構 1・ピット	土師器・須恵器・陶器・石製品・木製品	奈良時代の大型掘立柱建物 1 棟、円面硯

要約

吉富町に所在する和井田遺跡は沖積台地の先端、低台地の西端に位置する。検出した遺構は弥生時代後期～古墳時代後期の集落跡と近世の石列等で、主体となる時期は古墳時代初頭～前期である。竪穴住居跡は弥生時代後期１棟、古墳時代初頭～前期６棟を検出し、古墳時代後期の土坑等も確認している。特に古墳時代前期の１号竪穴住居跡からは、住居廃絶後に投げ込まれたと考えられる土器等が多量に出土し、町内では初となる良好な資料を得た。また、古墳時代初頭の円形竪穴住居跡を１棟確認した。大分平野を中心に、豊前地域では古墳時代初頭の円形竪穴住居跡が確認されており、今回は当該時期の竪穴住居跡の形態を考察する上で新たな一例を追加したことになる。

上毛町に所在する成恒山ノ内遺跡は、小規模な溝数条・柱穴を検出したのみである。出土遺物から概ね古代に掘削・埋没したもののようで、意味・用途などは不明である。

同じく上毛町所在の八ツ並下ノ原遺跡は、丘陵の先端部に形成された台地上に位置し、近隣には上毛郡衙と考えられる国指定史跡「大ノ瀬官衙跡」やその前身施設と考えられる「フルトノ遺跡」が位置する。今回の調査では、奈良時代と考えられる大型掘立柱建物や溝・柵列などを検出している。特に大型建物跡は、大ノ瀬官衙跡やフルトノ遺跡の建物跡に同方位をとるものがあり、律令時代の豊前地域の公的施設のあり方を考える上で、貴重な検出例となった。

福岡県行政資料	
分類番号 JH	所属コード 2114107
登録年度 27	登録番号 8

一般県道吉富港線・山内吉富線関係埋蔵文化財調査報告

和井田遺跡・成恒山ノ内遺跡・八ツ並下ノ原遺跡

平成 28 年 3 月 31 日

発　行　　九州歴史資料館
　　小郡市三沢 5208 － 3
印　刷　　石橋印刷株式会社
　　福岡市博多区東比恵 3 － 21 － 10